

2020 年度学位記・修了証書授与式 理窓会会長祝辞

本日ここに、東京理科大学をご卒業・ご修了の皆さま、誠におめでとうございます。理窓会を代表し、心からお祝い申し上げます。

私は今から半世紀前の卒業生ですが、伝統ある東京理科大学の卒業生となったことを誇りに、学位記授与式に出席したことを、昨日のこのように思い起こしています。1968年3月20日のことでした。

「実力主義」で甘さを許されず、特に実験や研究など、レポートまとめて苦労されたことは、これからの人生で必ずや役立つでしょう。

これからは学生時代と違った厚く高い壁にぶつかることが多々あるでしょうが、その時に「心の拠り所」となるのが恩師であり、学友でしょう。

「科学には国境がないが、科学者には祖国がある」との言葉を残してくれた先人がおりますが、東京理科大学は皆さんの祖国であり「心の故郷」でしょう。折に触れ、教えを受けた先生方や、共に汗して学んだ友との学園生活を思い起こしてください。

皆さんは今日から卒業生の会である「理窓会」の会員です。これまで21万人が卒業・修了し、世界中、日本国中で大活躍しています。

世代や業種・職種は違っても、同じ学び舎で学んだということは、それだけで親近感を覚えるものです。このことは卒業直後より、むしろ数年後・数十年後により強く感じられるでしょう。

この1年はCovid-19により数々の制約を受け、大変な日々を過ごされたでしょうが、「人生、すべて塞翁が馬」です。目の前に起きたことに一喜一憂せず、感情的にならず、科学的に捉え、荒波を乗り越えてください。自ら描いたVisionを胸に、新たな夢、新たな目標に向かって、大海原に向かって旅立ってください。自ら掲げたゴールにたどり着けるのは、「風向きでなく」「帆のかけ方」で決まるでしょう。

皆さんの将来に幸多からんことを祈り、お祝いのことばといたします。本日は誠におめでとうございます。

2021年3月18日

東京理科大学

理窓会会長 増淵 忠行